広　報

くろまつない

今年は歌才ブナ林天然記念物指定７０周年の年です。

秋を彩る文化の祭典

黒松内町総合文化祭

「介護保険」ってなに？

はじめに

平成十二年四月から始まります『介護保険』。

テレビや新聞等で、よく耳にする言葉ですが「なんのこと」という方も多いと思います。

介護保険法は昨年末に成立しましたが、まだ不確定な要素があることも事実であり、不安や誤解される点もあるとは思いますが、現時点での概要と準備状況を簡単にお知らせします。

いま、なぜ

みなさんもご承知のとおり、少子高齢化や核家族化などにより、二十一世紀は「高齢者の世紀」と言われています。

現在も家庭内での介護力の低下などの諸問題に直面しており、今後、介護する人もされる人も高齢者という時代が来ると予想され、もはや他人ごとではありません。

こうした背景で、安定した高齢期の生活を社会全体で支えていこうとする制度がこの介護保険制度なのです。

保険っていうから

他の保険と同様に保険料を納めて、介護が必要なときにサービスが給付されます。

町の役割は

町は、「保険者」となり介護保険制度を運営します。

介護認定、保険給付、保険料の徴収が主な業務となります。

保険料は

町内に住所を有する四十歳以上の方全員が納めます。

六十五歳以上の方を「第一号被保険者」、四十歳から六十四歳の方を「第二号被保険者」といいます。

◎六十五歳以上の方

年金からの天引きが原則ですが、年金の額に応じ個別に支払う場合もあります。

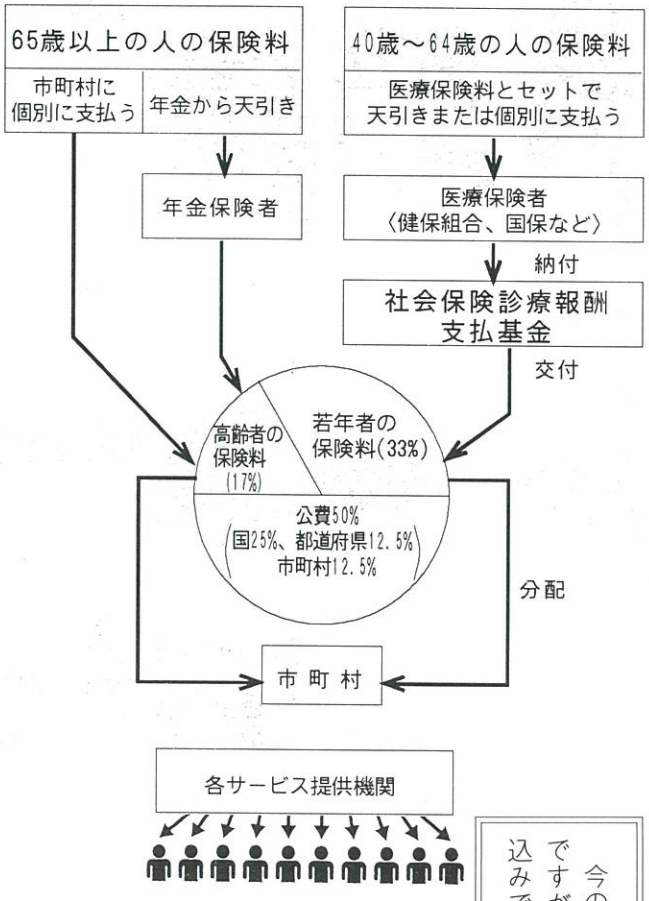
◎四十歳から六十四歳の方

会社勤めの方は、給料から天引き等、その他の方は、国保税といっしょに納めます。

今のところ、保険料の額は未定ですが、所得に応じ決定される見込みです。

■ 集めたお金は？

介護保険制度の運営にかかる経費に当てられ、その割合は全体の約半分を占めることになります。



平成12年４月スタート！ 介護保険

サービスを受けるには

1　まず、要介護認定（※1）の申請をします。

2　調査員が対象者の家庭へ出向き、食事や入浴等の日常生活の状況を面接調査し、また、かかりつけの医師に身体上等の意見書を書いてもらいます。

3　2の結果をもとに介護認定審査会（※2）で審査され、認定されます。

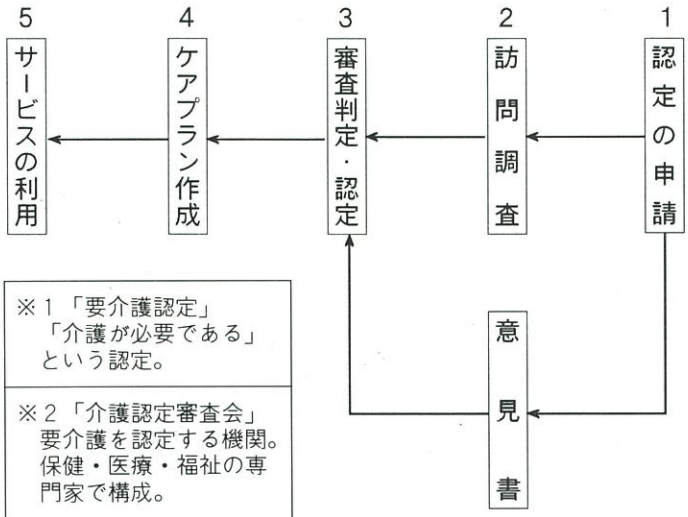
4　在宅サービスか施設サービスを選択し、ケアプラン（※3）を作成します。

5　ケアプランにしたがって、サービスを利用します。

自己負担は一割

介護保険のサービスを利用した場合、利用者は、サービス費用の一割を支払い、残り九割が保険料と国・道・町の公費から支払われます。

また施設サービスを選択した場合は、一割と食事代等の一部を支払います。



※1「要介護認定」
「介護が必要である」という認定。

※2「介護認定審査会」
要介護を認定する機関。保健・医療・福祉の専門家で構成。

※3「ケアプラン」
サービスの種類と回数を組み合わせる介護サービス計画。

■ 介護給付対象者

第１号被保険者
65歳以上の方
●寝たきり等で、入浴、食事など日常生活動作について常に介護が必要な方。 ●家事や身仕度等の日常生活に支援が必要な方。
第２号被保険者
40～64歳の方 ●初老期痴呆、脳血管障害など、老化にともなう病気によって介護等が必要となった方

■ 介護保険で受けられるサービス

在宅サービス
●訪問介護（ホームヘルプ） ●訪問看護 ●日帰りリハビリテーション（老健のデイケア） ●居宅療養管理指導 ●日帰り介護（デイサービス） ●短期入所生活介護（ショートステイ） ●短期入所療養介護（老健でのショートステイ） ●福祉用具の貸与、購入 ●住宅改修（手スリ、段差解消等）など14項目があります。
施設サービス
●介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） ●介護老人保健施設（老人保健施設） ●介護療養型医療施設・老人痴呆性疾患療養病棟など

介護認定は、一定の期間で見直しを行います。

現在の準備状況

平成十二年四月スタートに向け、介護保険の円滑な運営を進めるため『介護保険事業計画』の作成をしており、今年度は、高齢者の状況、ニーズ等を把握するため、高齢者実態調査を実施しています。

この調査結果に基づき、サービス量の推計等を行い、保険料が算定されます。

また、介護保険運営の事務効率化等を図るため、南後志地区（黒松内・寿都・島牧）の三町村が、介護保険モデル事業等を通じて、認定事務の広域的な取組みを検討しております。

今回の特集を含め、介護保険の状況を随時、皆さんにお知らせしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

まつり

丁民センターで開催した健康まつりのもようをお伝えします。
こもかかわらず、255人の町民が参加しました。

歯科相談＆良い歯の表彰

3歳で虫歯のない子6人に、谷口町長から賞状と記念品が贈られました。これからも歯みがきをつづけて、虫歯をつくらないでね。

〈表彰者〉

加藤　遥菜　ちゃん（14　区）
佐藤　蒼太　くん　（中ノ川）
佐藤　桃佳　ちゃん（北7区）
庄子　未来　ちゃん（14　区）
中原　紫雲　くん　（北7区）
新川幸一郎　くん　（10　区）

◀歯がいいと「いい顔」してますねぇ

◀「痛いことしない？」「虫歯がなければね」

この他に、会場の歯科相談にこられた方で『6020』(60歳以上で自分の歯を20本以上もっている）の方にも表彰状と記念品が贈られました。

自分の歯でおいしくご飯を食べられるということはとても幸せなことです。これからも自分の歯を守ってください。

▲「私もまだまだ若いわね」

〈表彰者〉

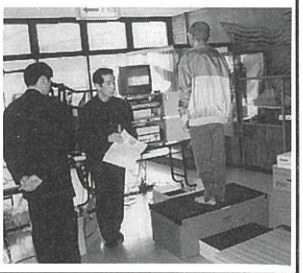
日村　美和さん（白井川）31本
小畠　洋子さん（中　里）26本
藤田　洋子さん（北7区）25本
若林ツゲ子さん（9　区）23本
後藤　四郎さん（14　区）23本
若林　　薫さん（9　区）22本
鎌田　静子さん（1　区）20本
後藤トミ子さん（14　区）20本

◆その他　こんなコーナーもありました◆

▶「救急」って大切なんだね

▶これは君の作ったポスター

▶話題の介護保険



▶「立ち方」って以外と大切

待望の救急業務 いよいよスタート！

皆さんご存知のことかと思いますが、十月から消防署黒松内支署にて救急業務が開始されました。

救急業務開始

これまでは、救急の通報があっても、寿都町・島牧村などの消防署に救急車の出動を依頼したり、十分な応急処置装備の整わない司令車などで対応していました。

これを背景に、高齢者の数が多く、施設も多い本町では「一刻も早い救急業務の開始」、「救急車の導入」といった要望が町民から出続けていました。

今回の救急業務開始によって、通報に対して、すばやく、きめの細かい対応が可能になりました。

町民の反応も早く、十月だけで救急三件・転移搬送五件・交通事故一件の計九件の出動がありました。

「職員一同万全の体制で救急業務に努め、町民の要望に応えられるよう努力していきます」と言う黒松内支署では、当直を一名から四名に増やし、十四名の全職員が救急職員の資格を持っています。

そのうち二名がより高度な技術を持った救急救命士という国家資格を取得するなど、万全の体制で業務に望んでいます。

救急車導入

この度導入された救急車は、排気量三〇〇〇ccのターボエンジン搭載4WD車で乗車人員は八名のものです。

第6回 健 康

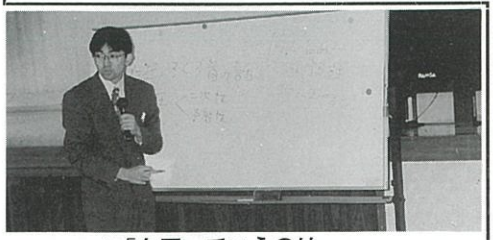
10月４日、晴れたり曇ったり雹(ひょう)まで降りだすなか、
今回のテーマは『血圧』。こんな不思議なお天気

基調講演

勤医協黒松内診療所所長　小杉　尚先生が「血圧について」わかりやすく丁寧にお話してくれました。

血圧というものはあらためて聞かれると結構わからないもの。

今回の先生の話をもとに、皆さんで話合ってみてください。



▲「血圧っていうのは…」

健康相談

血圧測定をはじめ尿検査や体脂肪測定を行い、町立病院と勤医協の看護婦さんに健康についてのアドバイスをもらいました。

血圧は色々な病気とも関係しているため、自分の健康状態を把握することは大事なことです。

栄養相談

▶「さっそく今日の夕飯に作ってみるわ」

町の栄養士が、血圧に良い食事を含め、より健康的な食事などについて相談にのりました。ぜひ活かしてください。

健康試食コーナー

血圧を上げすぎないようにちょっとしたアイデアを加え、「牛肉のごま和え」、「納豆の天ぷら」他４点を作りました。

皆さんにおいしいと評判でした。

▶「まあ、おいしいわねぇ」「これ、健康にいいらしいわよ」

▶お昼も近くなると「これいただいていいかしら」

※レシピは保健福祉センターにあるので、ぜひご家庭でもお試しください。

救急自動車受納式
入魂式・救急隊発足式

十月一日、消防署黒松内支署で救急自動車受納式・入魂式・救急隊発足式が行われました。

北海道共済農業協同組合連合会札幌支所長による寄贈経過報告などが行われた後、谷口町長より寄贈者に対して感謝状が贈られました。

入魂式で救急自動車業務の安全を祈った後、発足式では谷口町長のあいさつ、黒松内救急隊による決意表明などが行われ、式は終了しました。

主な装備品は、酸素吸入装置や、消毒用資器材に加え、プロパックという心電図モニタなどがあります。

なお、今回の導入は、以下の団体・個人の寄贈によって行われました。

- 救急自動車寄贈
  北海道共済農業
  共同組合連合会
- 救急資器材等装備品寄贈
  黒松内町建設協会
  黒松内ライオンズクラブ
  今　田　忠　義　様

消防からのお知らせ

救急車を呼ぶ時には、落ち着いて以下のことを行って下さい。

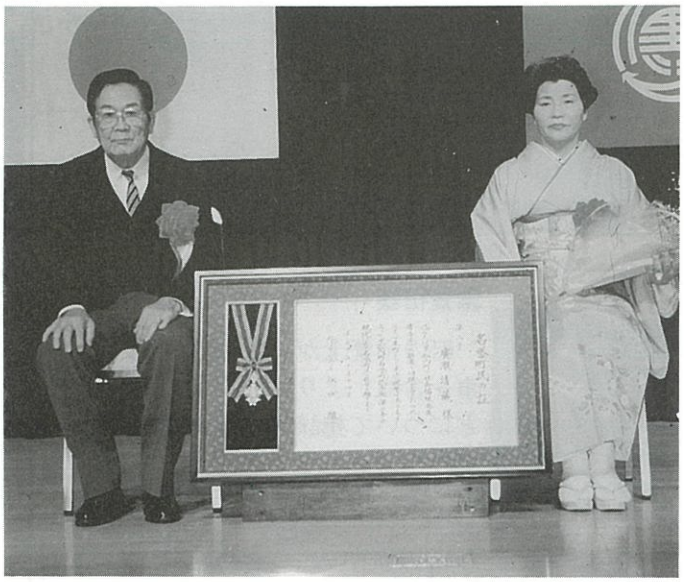
○内容（症状）を具体的に説明する

○氏名・住所（現在地）をはっきりと伝える

○玄関や道路に出て救急車を誘導する

などのことを守って、迅速な救急活動に御協力下さい。

名誉町民第2号に廣瀬清藏氏



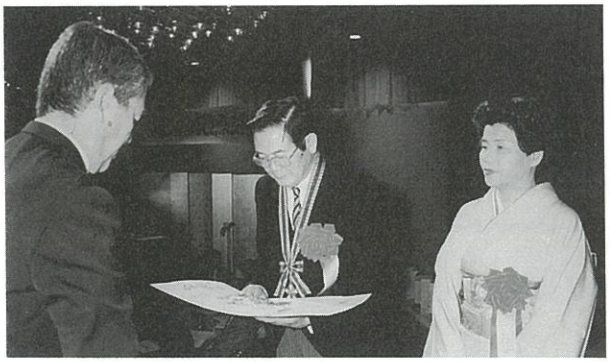
町では、行政・経済・産業・文化の振興ならびに社会福祉等各般にわたって町の伸展に大きな功績を挙げられた方を、名誉町民として顕彰し、その功績を称えるものとしています。

この度、前町長の関川龍彦氏に次ぐ、五年ぶりの名誉町民第二号として社会福祉法人黒松内つくし園理事長の廣瀬清藏さん（十区）が決定し、十月十四日、町民センターで名誉町民称号授与式・祝賀会を開催しました。

式典の様子

約百三十名が招待された式は、「今後とも豊富な識見と貴いご経験を生かして、本町の社会福祉の伸展に、一層のご尽力を期待しています」という谷口町長の式辞に引続き、名誉町民称号の授与が行われ、町長より廣瀬さんに名誉町民証と名誉町民章が手渡され、同伴された悦子夫人には花束が贈られました。

鈴木議会議長と菅原商工会長の祝辞を受けた後、廣瀬さんは「自分が受章するということは、つくし園の職員が四十年にわたり地域福祉を実践した証です。心よりお礼を申し上げます」と謝辞を述べ、式は終了、祝賀会へと移りました。



祝賀会は、参加者それぞれが廣瀬さんの受章を心から祝い、若柳純希師範による舞踊が披露されるなど盛大に行われ、井澤教育委員長の万歳三唱で終了しました。

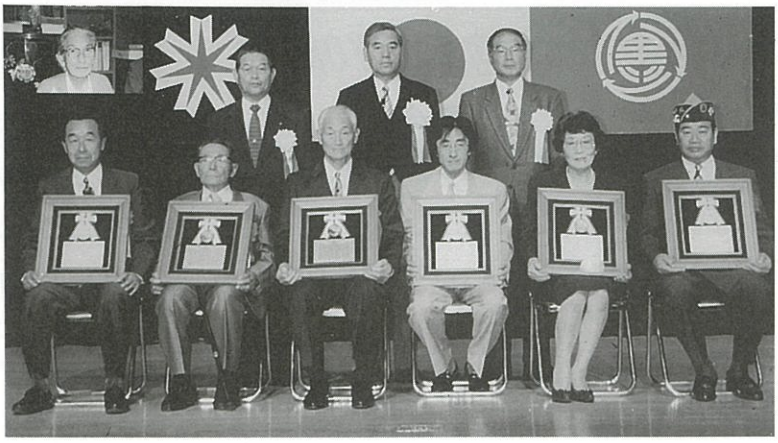
廣瀬清藏氏の主な経歴

大正　十一　年　北海道美唄市にて出生
昭和　十二　年　札幌逓信講習所に入り小樽郵便局に勤務の傍ら、小樽市立商業学校を卒業
昭和　十七　年　東京逓信官吏練習所外国郵便語学科卒業、兵役に応召
昭和　二十　年　召集解除後、郵便局勤務に復職
昭和二十四年　小樽電話局勤務
昭和二十六年　勤労者医療協会黒松内診療所事務長
昭和　三十　年　黒松内町教育委員
昭和三十一年　養護施設黒松内つくし園を開設
昭和三十二年　社会福祉法人の認可、常務理事・園長に就任
昭和三十四年　黒松内町教育委員長就任
昭和三十八年　黒松内町議会議員
昭和四十一年　黒松内つくし園理事長就任
昭和四十四年　全社協　全国養護施設協議会協議員
昭和四十八年　黒松内町社会教育委員長就任
昭和五十二年　黒松内町総合開発審議会委員長就任
昭和五十三年　黒松内町民生委員推薦会委員長就任
昭和五十五年　黒松内町社会福祉協議会長就任
昭和五十八年　北海道福祉施設士会長就任
昭和　六十　年　北海道児童福祉審議会委員
昭和六十一年　会社協　日本福祉施設士会副会長就任
平成　三　年　北海道里親連合会長、全国里親会理事就任
平成　六　年　全社協　全国養護施設協議会副会長就任
　　全社協　全日本福祉施設士会長就任

受賞歴

昭和三十六年　紺綬褒章
昭和四十三年　北海道知事表彰（社会貢献賞）
昭和四十七年　黒松内町表彰（自治功労）
昭和五十二年　厚生大臣表彰（児童福祉法制定三十周年記念）
昭和五十七年　北海道知事表彰（特別表彰）
昭和　六十　年　黒松内町表彰（合併三十周年記念）
平成　二　年　藍綬褒章
平成　三　年　（財）日本顕彰会長表彰（里親表彰）

栄誉を称えて
平成十年度黒松内町表彰式



受賞者の方々です。左から黒松内町建設協会（会長　菅原久光）様、矢木田喜一様、今田忠義様、故　五位尾豊様（御遺族・長男　肇様）、渡辺靜栄様、黒松内ライオンズクラブ（会長　茂尾実）様、別枠の写真が佐藤工様です。

町は毎年、町の自治・経済・文化・その他各般にわたり、町政の振興に寄与された方や住民の模範となるような活動に取り組んできた方々を表彰条例に基づき表彰しています。

今年の表彰式は十月三十日、町民センターで行われ、五名一団体が表彰を受け、一団体に感謝状が贈られました。

ここで、受賞者のお名前と功績などについて紹介します。

佐藤　工　様（共和町）

永年にわたり、緑ヶ丘ハイツ診療所長として寝たきり老人等の健康保持増進に力を注がれ、本町老人福祉向上に多大の貢献をされました。

故　五位尾　豊　様（五区）

永年にわたり、本町五区区長並びに商工団体役員として本町の自治振興と産業経済の発展に多大の貢献をされました。

今田忠義様（一区）

東山芝桜一株運動の趣旨に賛同され、永年にわたり植栽、管理さらに増植に努められた功績は他の模範であります。

矢木田喜一様（豊幌）

永年にわたり豊幌地区の住民福祉活動を積極的に推進された功績は他の模範であります。

渡辺靜栄様（江別市）

永年にわたりちびっ子書道教室を開設し、児童生徒等数多くの書道普及に努め、本町の文化振興に寄与された功績は他の模範であります。

黒松内ライオンズクラブ

救急救命業務開始にあたり救急資器材装備品として多額の寄附をされました。

～感謝状贈呈～

黒松内建設協会

救急救命業務開始にあたり救急資器材装備品として多額の寄附をされました。

老人保健施設建設安全祈願祭

去る十月六日、黒松内温泉付近に町老人保健施設を建設するにあたり、安全祈願祭が行われました。

当日は関係者約百名が集まり工事の無事を祈りました。

この施設は、病院に入院するまでではないが、自宅で生活するには不安のあるお年寄りを一定期間受け入れます。

平成十二年五月にオープン予定のこの建物は、鉄筋コンクリート造り二階建てで入所者用に五十床（内ショートステイ二床）が用意され、通所者も十名受け入れます。

近隣町村ではまだ少ない施設なので、医療と福祉の両面で期待がかかります。

特産物展示販売施設愛称決定

白井川市街地の国道五号沿いにて着々と建設が進む特産物展示販売施設がまもなく完成します。

また、六月に公募した施設の愛称は、町内外から数多くの応募の中からフランス語で「二番目の緑の建物」を意味する「toit vertⅡ（トワ・ヴェール　ドゥー）」に決定し、最優秀名付け親賞には、牛尾広之さん（三区）が選ばれました。

この施設は、ハム・ソーセージなどを販売するコーナーのほか様々なコーナーが用意され、「道の駅」の指定も受ける予定です。

皆さんご期待ください。

歌才ブナ林天然記念物指定70周年
ブナフォーラム'98「食うべ・語るべ・くろまつない」開催

歌才ブナ林が天然記念物に指定された1928年(昭和３年)から70年。88年から５年周期で始まったフォーラムも今回で３回目を迎えます。93年の国際ブナフォーラムで残された宿題「地域の中でブナ林を大事にしていこうという発想と行動を根づかせること」を念頭において、今回のフォーラムは開催されました。

10月22日

天然記念物指定記念日でもあるこの日は、「指定記念日ブナ林散策」・「開始宣言」が行われました。

指定記念日ブナ林散策

記念の一日に、指定のきっかけを作った故・新島善直博士の足跡をたどりながら、ブナ林をゆっくり散策しました。参加者はブナだけでなく、地域一帯の歴史についての話を聞き、素朴な疑問を投げかけたりしながら、歌才の自然を満喫しました。

フォーラム開始宣言

ブナセンターに35人が集まって行われた開始宣言では、牛尾実行委員長の「皆さんの知恵を拝借して、ブナ林について大いに語り、新たな発見をしていきたい」というあいさつの後、参加者がブナ林の今後について話し合う中、陶芸教室でおなじみの下澤土泡先生が「歌才ブナ林天然記念物指定70周年記念の壺」を作成するなどして、記念の日に花を添えました。

11月４日～15日

各地区の生涯学習館などを会場にして、地域ごとにブナ林をはじめとした昔話を聞く「各地区で井戸端会議」が４日の白井川青少年会館をかわきりに開かれました。

各地区で井戸端会議（白井川青少年会館）

11月４日に白井川で行われた会場には、老人クラブの方々約15名が四季のブナ林のスライドを見ながら、昔のブナ林や白井川地区について語り合い、これからのブナ林について考えました。

その他にも、地図を見ながら合併前の熱郛村時代の地域の話や、当時の生活習慣などについて話を聞き、その背景にブナがどう関っていたかなどをうかがって、昔のブナの姿を探りました。

歌才ブナ林の歴史

歌才ブナ林は大正12年、故・新島善直博士が天然記念物調査委員として歌才ブナ林を調査したことがきっかけで、ブナ自生地の北限として昭和３年に国の天然記念物に指定されました。

新島博士は初めて歌才のブナ林を見た時「北のヤシの木のようだ」と言ったと伝えられています。

戦時中をはじめ、幾度となく伐採の危機を迎えた歌才ブナ林が今も残っていることは、当時の住民や学者たちがブナ林を大切に思っていた証拠ではないでしょうか。

DATA

面　積	９２.４３ha	ブナの本数	約１万本
平均樹齢	１５０年	平均樹高	１８m
平均直径	４０cm	最大直径	１３６cm

10月25日

フォーラム開始後、最初の日曜日となったこの日は、黄葉の進むブナ林を楽しむ「黄葉のブナウォッチング」が行われました。

黄葉のブナウォッチング

34名が参加して行われたこの日は、午前中だけの「お気軽コース」とブナ林の中で昼食をとる「のんびりコース」に分かれて行われました。

当日のブナ林の様子は、黄葉こそ例年ほどではなかったものの、ブナ林らしい美しい景色が随所に見られ、参加者たちに感動を与えていました。

参加者は「こんな記念の年にブナ林に入れて、貴重な体験をしました。５年後、10年後も美しいブナ林であってほしい」、「初めてブナ林に入りました。こんなにも自然が残っているとは思わなかった」と感想を言いながらブナ林の散策を楽しみました。

ふれあいTOWN情報

秋のくろまつないをタスキでつなぐ

第二十九回黒松内町内一周駅伝大会

秋も半ばの十月十一日、今年で二十九回目を迎えた黒松内町内一周駅伝大会が行われ、六十七チーム、約五百人の選手が晴れ渡った空の下、熱戦を繰り広げました。

町営球場での開会式の後、自然の家前からスタートした選手たちは、各区間とも懸命に走り、タスキをつなげました。

今年の優勝チームは、一般の部「恵庭ＮＲＣ」、自衛隊の部「滝川自衛隊」、女性の部「ナイアガラＭＣ・Ｃ」、シニアの部「ナイアガラＭＣ・Ｂ」の方々でした。皆さんお疲れ様でした。

朱太川に河畔林をとりもどそう

朱太川河畔林再生事業

去る十月十三日、寿都町浜中地区の朱太川沿いで、小樽土木現業所主催による「朱太川河畔林再生事業」が行われました。

これは寿都町・黒松内町を流れる朱太川の河川敷地を有効利用して、河畔林を再生させようという事業で、今後三年間をかけて実施されます。

当日は、寿都町の小学生や、一般参加者など約百名が集まり、「生態学的混播法（せいたいがくてきこんぱほう）」という手法で種まき・植樹などを行いました。

今回は、ミズナラ、カシワなど約四十種の苗木や種子を約千五百株植えつけ、朱太川河畔林再生へ、確かな一歩を刻みました。

▲「来年は何センチ伸びてるかなぁ」

「安全運転」よろしくお願いします

白井川地区秋の街頭啓発

白井川地区国道五号の熱郛支所前にて九月二十四日、秋の街頭啓発が行われました。

黒松内中学校や白井川中学校の生徒も参加した今回の街頭啓発は、合計六十七名が参加して安全運転を呼びかけました。

また、今回の街頭啓発では、田村満里子さん（共心第一）から手作りの交通安全祈願の鈴が寄附され、中学生が作ったクッキーやコースターなどと一緒に、ドライバーの方々に配られました。

鈴のおまもり200個を、町長に手渡す田村さん▶

「うまくとれるかな？」「よーし」

児童クラブ「おまつりごっこ」

九月二十四日、児童館（八区）で児童クラブの子どもたちが、町内のお友達を招待して「おまつりごっこ」を行いました。

「ごっこ」といっても金魚すくいやヨーヨー釣り、フランクフルトなど、内容は本格的で参加した約四十名の子どもたちは「楽しかった、またやろうね」と、クラブのみんなで作った八つのお店に大満足といった様子でした。

今後もこういった子どもたちとの交流をはかる場をつくっていくそうです。

▲手づくりのヨーヨー釣りに挑戦「いらっしゃーい」

町の財政状況を公表します

—平成10年度上半期（４月～９月）財政公表—

（町では、「財政状況の公表に関する条例」により、財政の執行状況を年２回公表することになっています。）

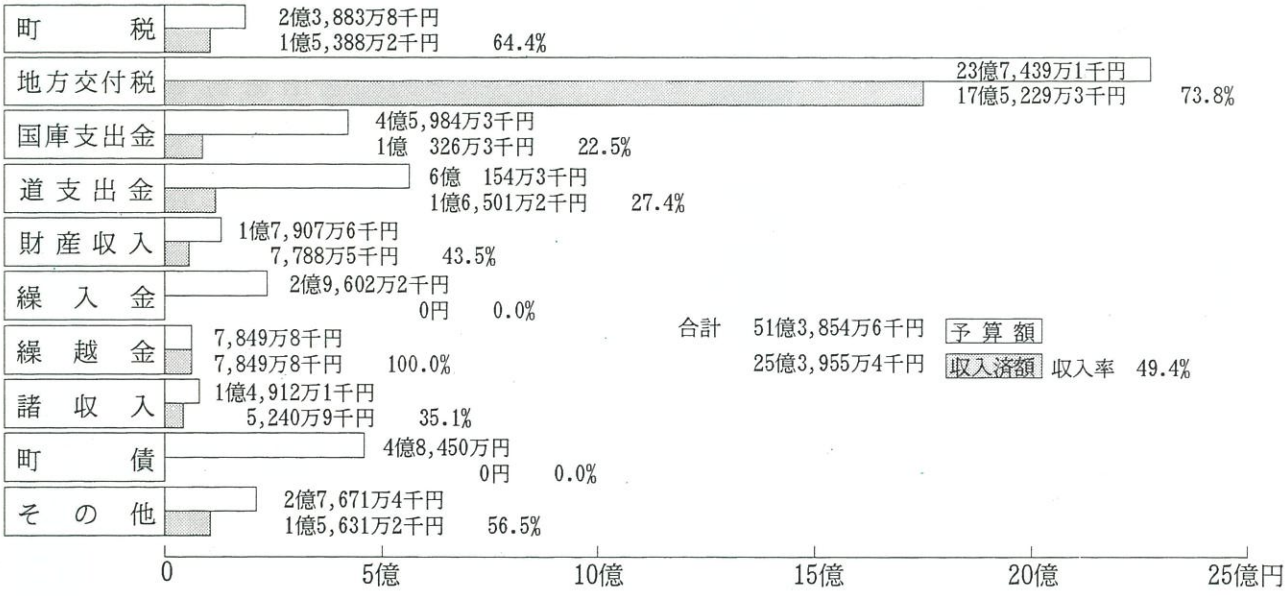
一　般　会　計

上半期の予算は、当初予算額４８億６，５００万２千円に補正予算額２億７，３５４万４千円を加え総額５１億３，８５４万６千円となります。

■歳入予算

歳入は、予算総額に対して収入済額２５億３，９５５万４千円で、収入率４９．４％となっています。

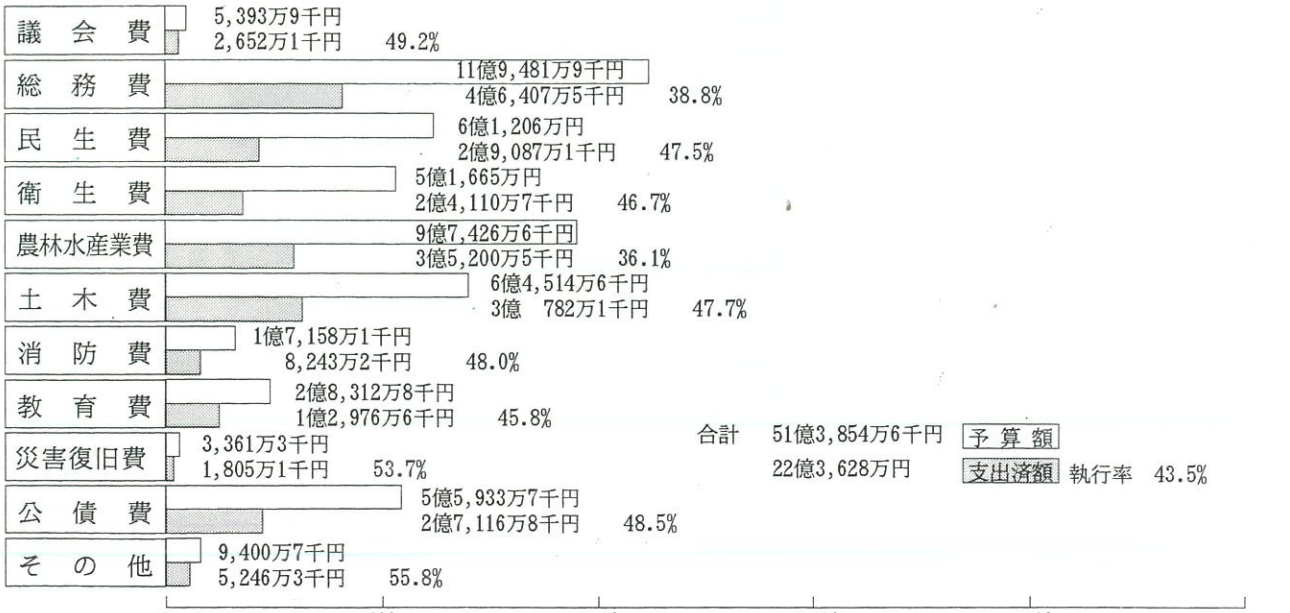
歳入の予算と収入の状況



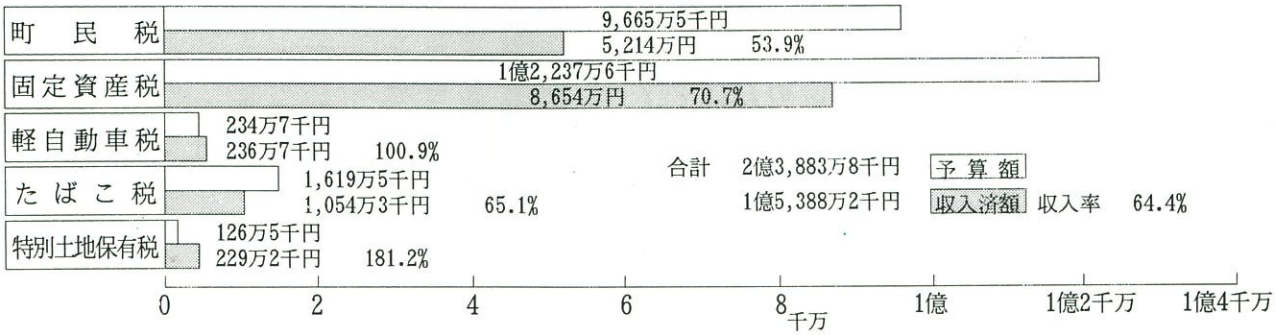
■歳出予算

歳出は、予算総額に対して支出済額２２億３，６２８万円で、執行率４３．５％となっています。

歳出の予算と支出の状況



町税の予算額と収入状況



地方債の現在高(一般会計)

■	平成10年４月１日現在高	４２億４，０４７万７千円
■	平成10年度上半期償還元金	１億９，３１８万２千円
■	平成10年度上半期借入額	０千円
■	平成10年９月末日現在高	４０億４，７２９万５千円

一時借入金

■平成10年９月末日現在

一時借入金はありません

町有財産の状況

(平成10年９月30日現在)

□土地	13,928,493㎡	北海道暴力追放センター出捐金	400,000円
□建物	53,641㎡	□有価証券	0円
□株券		□基金	
北海道曹達株式会社	150,000円	財政調整基金	384,255,580円
株式会社ブナの里振興公社	7,650,000円	ふるさと振興基金	507,912,226円
□出資証券		減債基金	257,019,776円
北海道土地改良事業団体連合会	204,389円	地域福祉振興基金	376,020円
黒松内町森林組合	1,673,100円	人材育成基金	74,755,570円
北海道農業信用基金協会	1,040,000円	地域福祉基金	132,640,997円
□出資による権利		農業振興基金	106,325,754円
北海道私学振興基金	42,000円	中山間地域活性化推進基金	3,237,756円
北海道市町村福祉協会出資金	1,000,000円	北川基金	3,612,000円
備荒資金基本財産	87,363,888円	庁舎建設基金	50,170,360円
北海道国保連合会基金積立金	183,273円	簡水会計基金	4,606,063円
北海道農業開発公社出捐金	200,000円	公共下水道事業基金	261,252,280円
北海道学校保健会出捐金	200,000円	国保会計基金	16,262,560円
北海道健康づくり財団出捐金	2,560,000円	土地開発基金 預金	75,017,827円
北海道社会福祉施設運営財団出資金	120,000円	土地	6,295㎡

特別会計

(単位:千円、%)

会計名	〔歳入〕予算額	〔歳入〕収入済額	〔歳入〕収入率(%)	〔歳出〕予算額	〔歳出〕支出済額	〔歳出〕執行率(%)
簡易水道特別会計	347,337	27,980	8.1	347,337	143,649	41.4
公共下水道事業特別会計	549,373	78,072	14.2	549,373	188,700	34.3
国民健康保険事業特別会計	377,163	162,648	43.1	377,163	145,025	38.5
老人保健特別会計	556,689	237,341	42.6	556,689	229,340	41.2
老人保健施設事業特別会計	132,725	0	0.0	132,725	16,397	12.4
	〔収益〕				〔費用〕	
国民健康保険病院事業会計	696,300	219,457	31.5	696,300	309,494	44.4

学校だより

黒松内中学校

〈郷土を知る学習・最終段階〉

先にこの欄で、本校の「総合的学習の時間」を利用した「郷土を知る」学習の実施についてお知らせしましたが、その第三段階「福祉教育分野」の活動がいよいよ始まりました。

これまでは、郷土の芸能や文化の継承の目的で「よさこいソーラン」の踊りの練習と発表。郷土の歴史や現状を知る目的で「各方面への取材に基づく調査・報告活動」を行ってきましたが、いよいよ町内の福祉教育関係の学校・施設での学習が始まりました。

まず、その第一段階として、十月二十六日に前教育委員長で緑ヶ丘老人ホームの施設長稗田静男先生に福祉についての講話をして戴きました。

お話の内容は、「福祉は人間の幸せを求める営み」であることをテーマに極めて有意義なものでした。四十分という短い時間ではありましたが、生徒は真剣に聞きいっていました。この後、十一月初旬から中旬にかけて、一年生は「余市養護学校しりべし学園分校」での交流学習。二年生は「緑ヶ丘老人ホーム」でのボランティア活動。三年生は「しりべし学園成人寮」で利用者の皆さんとの共同作業を行います。

この教育活動を通して、子供たちが少しでも福祉について理解を持つと同時に、ノーマライゼーションの精神を学び、「差別」や「偏見」の無意味さを肌で実感して欲しいと考えています。そして、このことが、学校における「いじめ」の根絶につながれば大変幸せだなと考えています。

中ノ川小中学校

〈本校の沿革史から〉

校長　瀬戸川　淳

小学校百周年・中学校五十周年記念式典を前にして沿革史に目を通す機会があります。

明治三十一年以降、昭和二十年代までの学校への寄贈品目を見ますと、次の品目が目にとまりました。

時報用の鐘、ブランコ、雑記帳、半紙、鉛筆、地球儀、グラフ式計数器、リットル計量器、アイロン、裁縫板、身長測定器、ラジオ受信機、日本産業地図など。

開校当時から、児童生徒の学習用具が最も必要性高く、価値あるものであったことが伺えます。多数を占める品目としては、半紙、雑記帳であり、地域の人は子どもの教育に全力を傾注し学校への期待も大きかったものと考えられます。

また、教育備品の寄贈が多いことも教育の関心が高かったことを物語っています。それにしても現在の教育環境施設設備とは比較にならない日本の状況を知ることができます。

昭和二十二年十月十日、中学校最初の修学旅行は、二・三年二十六名が二股温泉へ。以後は、函館・登別・室蘭へと広がっていきます。同二十四年には、管内単級・複式研究指導学校として指定されています。

教育課程に自転車旅行が位置づけられ、長万部・島牧・蘭越へと二十八年から二年間続けられています。

昭和二十四年からの学校林造成運動に伴う植林事業（五十嵐地区）には、地域の多大な尽力があったことを痛感します。

やんちゃ倶楽部

一歳でーす

一歳おめでとう。優里は小ちゃいけれど、山椒は小粒でもピリリと辛いよ。ゆっくりと、大きく大きくなっていこうね。

～木村　淳一、忍さん～

木村　優里（ゆり）ちゃん
8月7日生
二女　（1　区）

毎日、笑顔ありがとう！これからも明るくやさしい、素直な子でいて下さい。パパ・ママ・み～んなで見守っています。

～津谷　教宣、美都枝さん～

津谷　美咲（みさき）ちゃん
9月3日生
長女　（北7区）

いたずらする時、とてもステキな笑顔で振り向いてくれます。キラキラと、輝くような女の子になってね。

～大谷　英行、陽子さん～

大谷　光（ひかり）ちゃん
9月16日生
長女　（10　区）

詠草

黒松内ブナの里歌日記会

一、紅葉狩り
　見納め走る　露天風呂
　　ひろ子

一、花の宴
　いつしか果てし　晩秋（あき）の風
　　息　生

一、落つる葉に
　こころ重ねて　一人旅
　　きみこ

一、野ネズミが
　枝に刺されて　乾きおり
　モズの仕技か
　　天は青空
　　よこやま

一、秋雲の
　しきりに湧くる　空のもと
　蔬菜畑の
　農夫汗して
　　錦　矢

お知らせ

自衛隊生徒募集のお知らせ

自衛隊では中学校卒業者を対象に自衛隊生徒を募集中です。

○応募資格
十五歳以上十七歳未満の男子で、中学校卒業者及び見込みの者

○受付期間
平成十年十一月四日～平成十一年一月四日

○試験日及び会場
平成十一年一月五日
陸上自衛隊倶知安駐屯地

○生徒制度の特色
・一般の高校と同じカリキュラムの教育を受け、三年終了時には高等学校卒業資格が得られます。
・採用と同時に「特別職国家公務員」となり、十五万四千五百円の給与が支給されます。

○衣・食・住
全員宿舎で生活し、食費・寝具などは無料

○休　暇
完全週休二日制、連続休暇有

○問い合せ先
〒〇四四－〇〇一三　虻田郡倶知安町南三条東一丁目　自衛隊倶知安募集事務所　☎〇一三六－二三－三五四〇まで。

JRより特急列車のダイヤ改正のお知らせ

旅客輸送の高速化を目的とし、特急『スーパー北斗』を六往復から七往復に運行本数を拡大し、同時に停車駅の拡大を中心としたダイヤ改正を平成十年十二月八日に実施する予定です。

長万部駅では三本の停車拡大と、黒松内から行って乗り換える接続線も、二本の増加が予定されています。

皆さんぜひご利用ください。

十二月は道税の納税推進強調月間です!!

道では十二月を「納税推進強調月間」として、滞納整理に取り組んでいます。自動車税や個人事業税など、道税の納税をお忘れの方はいませんか？

皆さんの暮らしの中で生かされている道税の納税に、ご協力ください。

納税についてのご相談は、後志支庁税務課までお問い合せください。（☎〇一三六－二二－一一一一　徴収係、内線二三六一）

御寄附ありがとうございました

先月、名誉町民に選ばれたことを記念して、黒松内つくし園理事長廣瀬清藏様（十区）からしりべし学園老朽改築費用の一部として金二百万円を賜りました。

歌才ブナ林の天然記念物指定のきっかけとなる調査をした故・新島善直北大教授の長女、高橋和子様（東京都杉並区）からブナ林保護推進費用として金二万円を賜りました。

善意に心から感謝申し上げます。

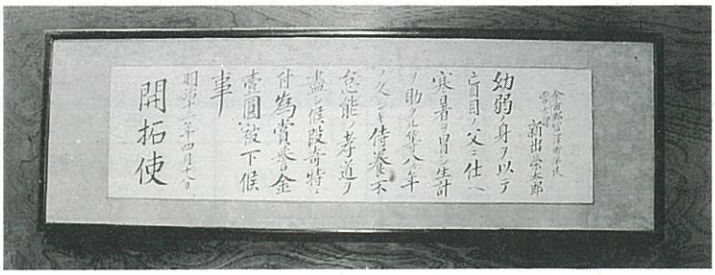
野田紀子さんに人権擁護委員表彰

本町中作開にお住まいの野田紀子さんが、北海道人権擁護委員連合会長表彰を受け、十月九日、函館地方法務局寿都支局長より表彰状が伝達されました。

野田さんは、平成五年から人権擁護委員として町民の様々な悩みや問題に対し相談を受け、的確なアドバイスを送り続けてきました。

そういった日々の活動が実を結んでの今回の受賞に「世界人権宣言から五十周年という記念の年に、この様な表彰を受けるのは大変嬉しいです」と喜びを話してくれました。

親を敬う子の心



今では、遠き明治の時代は、貧富の人間像が同居した時代と云われております。

富める者はますます栄え、貧しき者は、想像を超える苦難に堪え忍んだ。

「清貧の魂」は、この時代に生きた人達の強い精神力を培った。

本稿に紹介する写真は、当時余市町在住の新出栄太郎さんが幼弱の身にも関わらず、盲目の父に精魂を使い果たしながら、暑さ、寒さにもこらえ畏敬の心をもって父を支えてきたという文献です。

このことが、善行として認められ、明治十三年四月、当時の開拓使から表彰されました。

ものの豊かさの中で暮らし、親と子の尊い絆も希薄なものとなりつつある今の世代にこそ、このような優しい心の育みによる子どもたちの成長を願ってやみません。

今回、この様な願いを込めて、親戚である笠井守氏より資料の提供がなされました。

故 斉藤 實さんに 勲五等瑞宝章

熱郭郵便局長等として、永年にわたり郵政事業の推進のために活躍し、今年の七月五日に亡くなられた斉藤實（みのる）さん（八区）が勲五等瑞宝章を贈られ、加えて叙位従六位に叙されました。

伝達は十月一日に行われ、熱郭郵便局長から夫人のマサさんに勲章と勲記などが手渡されました。

斉藤さんは、昭和十七年に黒松内郵便局に入り、昭和三十二年に熱郭郵便局長になり昭和五十三年の退職まで熱郭郵便局長を三十六年間務め、地域振興に尽力されました。

この度の叙勲・叙位はこれらの功績が認められてのものです。

マサさんは「大変なものを頂いて感謝しています。こんな大事なものを頂きましたと、主人にも伝えたいです」と授章の喜びを話してくれました。

戸籍の窓口（敬称略）

		（前月比）	（前年比）
総人口	3,636人	（△2）	（△40）
男	1,712人	（△1）	（△13）
女	1,942人	（△1）	（△27））
世帯数	1,578世帯	（1）	（△1）

10月31日現在住民基本台帳

こんにちは　よろしくね

嶋　優人（ゆうと）　10・12　長男　12　区
（父・宏志、母・千敦）

林　太陽（たいよう）　10・22　長男　中作開
（父・利臣、母・佳代子）

濱野　彬喜（よしき）　10・26　二男　14　区
（父・隆行、母・由紀）

小杉　葵乃（きの）　10・29　長女　南7区
（父・尚、母・千恵）

いつまでもおしあわせに

堀　文孝（白井川）・成沢　利恵（共心第2）

ごめいふくをお祈り申し上げます

中村　志ず　10・15　93歳　南7区
平林　勲　10・15　54歳　上中ノ川
川村　一郎　11・11　77歳　大成

納め忘れはありませんか？

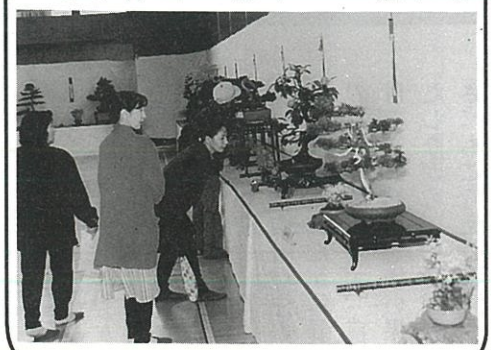
11月25日（水）は、
・固定資産税　第4期
・国民健康保険税　第6期
・町営住宅使用料　11月分　の納期です。

表紙

去る十一月一日から三日間、町民センターを中心に黒松内町総合文化祭が開催されました。

三日の芸能発表会では、出演者の皆さんが、踊りや楽器演奏など、得意の一芸を披露しました。

その他にも、リサイクルバザー、インターネット体験、作品展示発表会などが催され、映画なども上映されました。



まちの行事予定（11月21日～12月20日）

月	日	行事予定（場所、時間）
11月	21(土)～23(月)	歌才ブナ林天然記念物指定70周年記念 ブナ・フォーラム'98「みんなでブナ林の将来を考えよう」（町民センターほか）
	22(日)	中ノ川小学校創立100周年・中学校創立50周年記念式典（中ノ川小中学校体育館 10:00～）
	25(水)	歌才ブナ林天然記念物指定70周年記念 文化講演「自然の中の私たち」（講師・江戸家小猫さん）（町民センター 18:30～）
	29(日)	黒松内吹奏楽団 第3回定期演奏会（町民センター 13:30～）
12月	6(日)	町民卓球大会（町民体育館 8:30～）
	6(日)	キッパーズチャリティーコンサート（町民センター 18:00～）
	9(水)	特設人権相談所開設（町民センター 10:00～）
	10(木)	井戸端ブナ・フォーラム（ブナセンター 19:00～）
	17(木)	学芸員こばなし（ブナセンター 19:00～）
	20(土)	わくわく土曜日ランド（ブナセンターほか 10:00～）

※日程・時間など変更になる場合もあります。

編集後記

▼四ヶ月ぶりの編集後記です。みなさんいかがお過ごしだったでしょうか？▼新しい環境に置かれると時間の流れが早く感じられるといいますが、私が広報を担当してからはや半年を過ぎ、ふと気づけば年齢は二十代に突入し、雪の降るような季節になっていました。▼黒松内に来て初めての冬、雪が多いと聞いているので少々不安になっています。▼路面の凍結による事故が多い季節になりました。皆さん車の運転には気をつけてくださいね。（谷）

■平成十年十一月■発行：黒松内町役場　黒松内町字黒松内三〇二番地一　☎七二―三三一一■編集：企画調整課企画調整係　■印刷：㈲いとう文化堂印刷